

武庫川流域委員会宛
委員長松本誠様

武庫川を愛する尼崎市民の会
担当 丸尾雅美

運営委員会を公開することを求めます

1、「公開・非公開」が意味するものは、実務的な手続きの以前に、当該会議が一般住民に対して開かれていて情報を住民が共有できるか、それとも一般住民の目の届かない所で行われ住民が情報を共有できないか、という問題です。

1、この問題は第4回流域委員会において議論されました。委員から出された「合意形成の過程に住民は入らなくてよい」とか「流域委員が知る前に住民が知ることはおかしい」とかいう論理は、民主主義の理念とは相入れず、改正河川法や県住民参画条例の精神にもとるものです。「基本方針策定の段階から住民の意見を反映する」という知事の諮問にも反することになるでしょう。

1、いまひとつの重大な指摘があります。「自治体における議会運営委員会は非公開で行われている」という松本誠委員長の発言です。これが流域委員会運営委員会について非公開を妥当としたおおきな根拠になっていると考えられます。

ところが、これは事実と違っています。阪神間の自治体においては、県議会をはじめ、議会運営委員会はすべて公開で行われていることを確認してください。

1、実務上の問題を解決するための方法として、運営委員会を本委員会開催の前後などに行う提案があります。早急に検討してください。

2004年9月24日

武庫川流域委員会宛
委員長松本誠様

武庫川を愛する尼崎市民の会
担当 丸尾雅美

個別問題が解決しないでは、武庫川総合治水の基本方針・計画は成り立たない 個別問題「リバーサイド住宅」地区の治水対策を急いで

台風23号が武庫川流域に大きな被害をもたらしました。直近の流域委員会とリバーミーティングで、集中的に話題になった「リバーサイド住宅」問題は、これまでも武庫川の治水にとって、もっとも焦眉の課題とされながら、抜本的な対策が立てられないまま、今日までできました。そして、台風23号による壊滅的な被害を被ることになったのです。

床上1.5～2.0メートルの浸水をもたらした洪水は、家屋と家財および道路や水路のインフラを破壊し、住民の生活を崩壊させました。地区住民はわが家を捨てて、命からがら避難せざるを得ませんでした。この責はだれが負うべきなのでしょう。

武庫川流域委員会では、「個別問題への対応の原則」を作り、個別問題は考慮するものの全体方針・計画を策定するなかで検討するとの姿勢であるようです。言い換えれば、流域委員会は武庫川全体の基本方針と計画を定めるまで、個別問題については県当局の裁量にゆだねて「脇に置く」ことと読み取れます。

しかし、審議のすすむべき道筋は逆でしょう。武庫川総合治水の基本方針・計画を決めるため、その治水安全度をいかなるレベルに設定しようとも、その設定された安全度は「リバーサイド住宅」地区においてこそ、真っ先に実現されなければなりません。方針・計画を策定しようとしても、「リバーサイド住宅」の現状が放置されるかぎり、その成立は望めません。「リバーサイド住宅」は武庫川流域にあるのです。

「個別問題を審議するはずではなかった」との流域委員のうらみ節を、この難題を包含したまま武庫川総合治水を流域委員会に諮問した行政当局に向かって、問題解決を迫るエネルギーに転化してください。武庫川に関心を持つ者なら、当然ぶつかる最も重要な課題であるわけです。

「リバーサイド住宅」地区について、ただちに治水対策の審議を進めてください。

- 1、まず、これまでの県当局と現地住民との交渉内容を確認すること。
- 1、住民が安全に暮らせる施策を、県当局が住民と話し合って決めるように図ること。
流域委員会としても可能な限りの具体策を検討し解決をうながすこと。
- 1、決められた施策が完全に実施されるよう監視すること。

個別問題を解決する上記の作業があってはじめて、武庫川流域全体の基本方針・基本計画の策定が可能となると考えます。

2004年10月27日

2004年10月25日

武庫川円卓会議 運営委員 渡辺 隆



第7回貴委員会（2004年10月8日）を傍聴致し、今回の台風23号被害の実情を見て、一筆申し上げます。

先ず、委員会の席でリバーサイド問題の発言での齟齬、と貴殿の取りまとめ方に若干の違和感を覚えたのと棚上げ発言に遺憾の意を述べさせていただきます。

川の浸水被害スライド説明後、元は（あいのまつばら）河原であったところ云、？質問。

早とちりした●委員の反論めいた罵声。

これは、いつの間にか「人間の住むところではない」と誰かが云ったか？話しに尾ひれがついて云われている言葉であります。T委員の真意は過去の行政と開発した業者の責任にあり行政側の今後の対応について糺した質問になっています。

谷田委員はご存じの通り地域住民に信望の厚い生命と健康に日夜奉仕されているドクターであり、我々は先生が（安心して住むでられない所）よって何とかしなくては、してあげなくてはと常々言はれているのをよく知っている。

現に、台風後武庫川円卓会議の同志とリバーサイド住宅現地に見舞いと支援対策のために訪れた際に、先生に対する誤解があったりしたのも事実である。

24日には、我会メンバー20余名が教会に集合し活動を開始した。その折り、トイレの復旧に泥まみれになっている人がいたが、何と先生でありました。

この機会に、西宮市の職員、職労の皆様に対応の素晴らしさと御尽力に感謝と敬意を表しておきたいと思えます。

(人間の住むところでない) 発言は決して先生の言葉でないことを重ねて言っておきます。

要するに川の特長、今に至る問題の経過についての認識等の不足。十分な勉強をし専門家ともいえる諸先達が公募から落ちている現状。今回の惨状を踏まえ、なにも発言しない現委員の存在。等から傍聴者にも納得できる委員会の運営をお願いしたい次第。

(論語とは古いと言われそうですが、士(し)の使命は重大だ。、任務は重く道のりは遠いぞ！)

県職の関係者、各委員にも叱咤激励のほどをお願い致します。

以上